



環境保全米通信



2026年3月発行

春号

環境保全米も栽培されている仙台市太白区秋保町で受け継がれている「秋保の田植踊」。稲の豊作と地域の安寧を祈り、笛や太鼓の囃子にのせ田植えの様子を美しく振り付けた踊りが踊られています。

湯元(ゆもと)、馬場(ばば)、長袋(ながふくろ)の3地区でそれぞれ異なる踊りが伝わっており、国の重要無形民俗文化財に指定されているほか、ユネスコの無形文化遺産にも登録されています。



もくじ

1. 環境保全米を味わい、生産者から学ぶ「赤とんぼ食堂」を実施
2. JAグループ宮城から大学生へのおにぎり提供
3. 第20回全国学校給食甲子園 柊江小学校 20回記念特別賞
4. 環境保全米が買える店・食べられる店「カセット〜かくれがご飯」
5. 「有機農業の日」特製弁当、25年度も販売(東北農政局)
6. 環境保全米通信 読者アンケートから

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



『みやぎの環境保全米』とは

宮城の自然豊かな環境を守るために、農業・化学肥料を県の標準的使用量の半以下に減らし、自然と人間の力を合わせて生産されたお米です。

みやぎの「環境保全米」の取り組みは1992年のリオデジャネイロ地球環境サミットをきっかけに始まっており、SDGs(持続可能な開発目標)の実践そのものです。

バックナンバーもご覧下さい。



(JA宮城中央会のHPにリンク)



アンケート応募でお米プレゼント!
詳細は最終面



1. 環境保全米を味わい、生産者から学ぶ「赤とんぼ食堂」を実施

環境保全米への理解を深める恒例の「赤とんぼ食堂」(NPO法人環境保全米ネットワーク主催)が昨年11月28日、仙台市宮城野区のJA仙台直売所隣のたなばたけベジキッチンで行われ、消費者ら約15人が参加しました。ひとめぼれなど4銘柄の食べ比べのほか、環境保全米を生産する大郷グリーンファーマーズ(宮城県大郷町)の西塚忠樹社長(40)の講演がありました。西塚さんのお話の一部を紹介します。



講演する西塚社長

私たちが作るお米はほぼ全てが環境保全米に準じています。販売先は仙台市や隣接する富谷市、利府町など。2024年には(米を通じた農業振興と地域づくりの優れた取り組みをたたえる)第10回オリザ賞準大賞を受賞しました。

私たちがやりたいのは「循環型農業」。「里山や沢を守っていきたい」という思いで生産しています。そのためお客さんに農業体験や学習会に参加していただき、(里山を守る)ストーリーを知っていただいています。お米を売る

だけではさみしいですから。

水田稲作は作付をしない時期も必要です。この間に微生物が(水田に残る)有機物を分解してくれる。だから稲刈り後、土を休ませています。生き物調査を行い、殺虫剤も使わないようにしています。

地域の農地保全のため、私たちは草刈りを代行したり、畜産農家から牛ふんを引き取って堆肥にしたりと、作物・資源の循環に取り組んでいます。

今後は農薬と化学肥料を一切使わない有機栽培の面積を増やしていきたい。私たちの農業を学びに来る生産者も多く、技術提供もしていきたい。若手農業者が巣立つ町を目指したい。同時に消費者とのつながりを深め、「あの人のお米が欲しい」と印象づける事業展開を目指していきます。



環境保全米を食べ比べる参加者



講演に続く食べ比べでは参加者が「ひとめぼれ」「ササニシキ」「つや姫」、高温耐性品種「にじのきらめき」を味わって銘柄を当てるクイズにも挑戦しました。消費者の一人は「食べ比べてみてどれもおいしかった」と笑顔で話し、西塚社長についても「西塚さんのような若手生産者が頑張っていて、農業に明るい希望が見え、頼もしいと感じた」と話していました。



2. JAグループ宮城から大学生へのおにぎり提供



おにぎりを受け取り喜ぶ大学生ら

JAグループ宮城は勉学に励む学生に生産者の様々な思いを込めた宮城県産米(環境保全米も使用)のおにぎりを提供することで、食や環境への関心を広げ、さらには朝食の大切さについて考えるきっかけにしてほしいと、授業前の朝の時間帯に大学でおにぎりを配布しています。

最初の2023年度は年間で7回、東北工業大学へ計3300個、2024年度には東北工業大学と仙台白百合女子大学へ、各校年4回ずつ3150個のおにぎりを提供しています。2025年度には、宮城大学と仙台白百合女子大学へ、各校年4回ずつ2200個を提供しており、3年間で提供されたおにぎりの数は8650個です。

1月14日には、仙台白百合女子大学で最後の提供が行われました。寒い朝、8時前には出来立てのおにぎりが届き、学生が登校する前には準備完了です。具は、鮭、梅干し、昆布の3種類ですが、どれもおいしそうで、中には3種類全部食べたいという学生たちもいて、大人気でした。「2年間、ありがとうございました。またいつか〜」との声が上がっています。





3. 第20回全国学校給食甲子園 柊江小学校 20回記念特別賞



受賞した越後久美子氏と藤岡貴子氏のペア

食育の推進と地産地消の奨励を目的に開催されている全国学校給食甲子園で仙台市立柊江小学校が「武蔵エンジニアリング株式会社・20回記念特別賞」を受賞しました。応募献立総数 1,019 件。4 次審査及び応募献立を用いた 5 分間の「食育授業コンテスト」のビデオ審査を経て、12 校での決勝は 60 分で 6 食をつくる「調理コンテスト」。

そこでは学校給食と同様に調理工程表を作成し、業務により手袋やエプロンも取り替え、調理温度も記録するなど、おいしいだけではなく衛生的な配慮も問われます。

柊江小は 6 月に実際の給食で提供した雪菜飯（ゆきなめし）・牛乳・かつおのねぎみそ焼き・まめまめサラダ・米粉めん汁の献立で応募し、調理は栄養教諭の越後久美子氏と調理員・藤岡貴子氏のペアで臨みました。

主食は環境保全米の「ひとめぼれ」と玄米の「金のいぶき」を混ぜたごはん、食育授業の中でも環境保全米を使う意義などについて、説明しています。

JA や地元生産農家にも協力していただいたほか、宮城県農業高等学校で栽培した野菜を使用していることも評価されたようです。おめでとうございます。

かつおのねぎみそ焼き

まめまめサラダ

牛乳

雪菜飯(ゆきなめし)

(環境保全米ひとめぼれ・金のいぶき)

米粉めん汁



4. 環境保全米が買える店・食べられる店

「カシエツ〜かくれがご飯」



小鉢セット+本日の一品料理



店舗外観



夜ご膳

仙台・上杉に昨年オープンした大人気店「カシエツ」は、登米市産の環境保全米でつくられたおにぎりが食べられるお店。ランチは「小鉢セット」(¥880)、「小鉢セット+本日の一品料理」(¥1,180)があり、どちらもおにぎり&お味噌汁が食べ放題と魅力的な内容。

社長の山田さんは治療食などの調理経験を活かし、「良い食材を栄養バランスよく美味しく食べてもらいたいという思いで店をオープンさせた」と語る。その言葉通り、登米市地産地消推進店として、地元食材や調味料へのこだわりも大切にしている。

また、2月から新たに「カシエツ夜ご膳」が登場、ランチタイムやカフェタイムとは異なる表情を見せる夜のカシエツで特別なひとときを味わえます。



SHOP INFORMATION

住所／仙台市青葉区上杉 1-16-3 JA 別館ビル 1F 交通／地下鉄南北線北四番丁駅より徒歩 5 分
 電話／022-200-6166 キャッシュレス決済／可
 営業時間／ランチタイム 11:30～、ディナータイム・夜カフェタイム 17:00～20:00 (ラストオーダー各 30 分前)
 定休日／日曜、ほか不定休あり

※営業時間については、今後変更になる可能性があるため詳細はお店の Instagram 等でご確認ください。



@CACHET8118



5.「有機農業の日」特製弁当、25年度も販売(東北農政局)



ローストチキン弁当(白米)



ローストチキン弁当(玄米)



有機野菜と国産鶏からあげのおむすび弁当



ミロノ風チキンカツレツ弁当



三陸産銀鮭弁当



お弁当販売の様子

5種類のこだわりお弁当

※有機農業推進法の成立・施行から10周年を記念し、2016年に一般社団法人次代の農と食をつくる会により12月8日が「有機農業の日」として制定されました。

東北農政局では、12月8日(月)の「有機農業の日(*オーガニックデイ)」に合わせて、農政局職員と環境省東北地方環境事務所職員を対象に有機農業等への理解を深め、その推進の一助とするために、有機農産物を活用したお弁当の販売イベントを行いました。

環境に配慮して生産された食材を使用してお弁当などを提供している仙台市内の3店舗(ビオシーズ、おむすび屋べにすずめ、(株)真野屋)にご御協力いただき、有機JAS認証農産物、農薬・化学肥料不使用の農産物などの食材を使用した5種類のこだわりのお弁当を120個販売しました。

お弁当を通じて、環境に配慮して生産された食材を理解する良い機会になりました。



環境保全米通信のアンケートにご意見をお寄せいただきありがとうございました。

6.環境保全米通信 読者アンケートから



Q1 興味を持った記事は?その理由も。 **Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。**

Q1 環境保全米が食べられる店
以前より行ってみたいと思っていた店なので、環境保全米使用と聞いて余計に行きたくなりました。

Q2 おいしく食べる方法
環境保全米に合うおかずなど知りたい。(富谷市)

Q1 新田児童館で有機米食べ比べ
記事内のお子様が話していた味の甘さの感想に目を引かれました。農薬を使わない米や野菜は素材の味を引き出し甘く何もつけなくても食べられる。普段食べない子が食べていたという感想も印象的でした。

Q2 世の中物価高の影響もあり食を楽しむというよりとにかく安価な物を選ぶ傾向がある様に感じています。ファーストフード店の利用者の多さも気になります。環境保全米をはじめ宮城には美味しい食が沢山あるので食を楽しみながら健康意識も感じられるためにはどうしたら良いか?を取り上げてみてはいかがでしょうか。(仙台市)

Q1 新田児童館で有機米食べ比べ
いろいろな産地のお米を食べ比べできるという夢のような企画。すべての銘柄を当てた人はいないというのも納得できます。環境保全米通信を見て新米の時期にいろいろなイベントがあるのだと思いました。

Q2 ササシグレに黒澤米、だて正夢、つや姫。今はササニシキやひとめぼれの他にもいろいろなお米が生産されているんですね。県内生産のお米銘柄一覧というものを知りたいと思います。購入の参考になるかもしれません。(仙台市)

Q1 南三陸地区で環境保全米を初収穫。三浦さんの笑顔がとにかく印象的でした。お歳にかかわらず新しい米づくりに挑戦された達成感に満ちた表情を見ると、買って応援したくなります。

Q2 環境保全米を学校で食べている様子を見てみたいです。子どもの笑顔と未来の地球のために何ができるかを考えたいです。(塩釜市)



感想をお寄せください

アンケートをお寄せいただいた方には抽選で、環境保全米2キログラムを10名様にプレゼント!

Q1 興味を持った記事は?その理由も。 **Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。**

- 応募方法/次の項目をご記入の上、FAX・メール・郵送で応募先までお送りください。
● アンケートの回答 ● お名前 ● 年齢 ● ご職業 ● ご住所 ● 電話(FAX)番号
- いただいた回答および個人情報には当法人にて厳重に管理しプレゼントの発送、または各種情報の提供、イベントの案内以外の目的では使用いたしません。

● 応募締切/2026年4月30日(木) 消印有効 ※抽選結果は発送をもってかえさせていただきます。

● 応募先/NPO法人環境保全米ネットワーク事務局

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-16-3 JAビル別館5F
TEL:022-261-7348 FAX:022-261-7488
E-mail:okome@epfnetwork.org URL:http://www.epfnetwork.org/okome/



Webフォームからもアンケートが送れます。スマホ、PCからラクラク入力!
左側のQRコードを読み取るとジャンプします。

【アンケート記入例】

● アンケートの回答
Q1 _____
Q2 _____

● 名前 保全米 太郎
● 年齢 40才
● 職業 会社員
● 住所
〒980-0011
宮城県仙台市青葉区
上杉1-16-3
● 電話番号
022-261-7348